

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートの理解に必要な歴史的背景やモチーフ・技法・展示方法などを適切に用いることができる</li> <li>・社会課題や哲学的言説について理解し、アートと関連させて説明することができる</li> </ul>	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートを見て感じ取ること（＝感性）を通して社会課題を多角的にクリティカルに捉え、自分の考えを構築することができる</li> <li>・物事に一つの解答を求めるのではなく、複雑なまま受け入れて熟考することができる</li> <li>・自分自身の価値観やモノの見方を俯瞰し、他との関係性のなかで相対的に意味づけることができる</li> </ul>	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を通して自由に世の中を捉えることで、自分の未来の可能性を開いていくことができる</li> <li>・他者の表現や言説を自分の価値観に照らして、主体的に想像することができる</li> <li>・作家が内省を突き詰めて作品と対峙することを追体験することで、内在する自己の有りように向き合う姿勢を身につける</li> </ul>	
下位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①アート思考と論理思考の違いを理解し、用語として使い分けすることができる。</li> <li>②対話型鑑賞や作品分析に必要な情報を集め、目的に応じて選択することができる。</li> <li>③アートにまつわる哲学的言説や時事、歴史的事実などについて自分の言葉で語ることができる。</li> </ul>	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①アートとそうでないものとの違いについて鑑賞者と作品との相対性やコンテキストによる関係性を意識して考察することができる。</li> <li>②一つのアート作品についての情報を総合し、自分なりの分析を施すことができる。</li> <li>③アートプロジェクトや文化政策、パブリックアート等を通してアートに関わる社会課題について推察し見通すことができる。</li> </ul>	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①より多くのアート作品や文献に触れようとするすることができる。</li> <li>②一つの作品やプロジェクトに関する学びに対して時間をかけることができる。</li> <li>③自らの考えを昇華させるために、他者とアートについて語り、互いの価値観を認める姿勢を身につける。</li> </ul>	

授業日	11/14(火)	2 学期授業回数	7回目 / 全9回																																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・地域におけるアートの機能について実地調査に基づいた分析を行い、現状に批評を加えることができる。 ・地域におけるアートの機能について現状を批評したうえで、行政に対して改善策を提示することができる。 ・フィールドスタディの結果を課題解決のプロセスとして有効に位置づけることができる。 ・グループワークを通して適切な役割分担でプレゼンテーションを完成させることができる。																																		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	6つのグループがそれぞれにプレゼンテーションを行う。 1班6班「西宮浜アート計画」 2班3班「KOBE WATERFRONT ART PROJECT」 4班「六甲アイランド彫刻群」 5班「六甲ミーツ・アート」 神戸市文化交流課の武村様と、編集者美術家の岩淵様をゲストとしてお招きし、講評と激励を頂いた。武村様からは、文化政策の観点からいかに地域資源としてアートが活用されていくべきか、生徒の提案に感心され今後の行政の参考にしたいと激励の言葉を頂いた。また、岩淵様からは、アートでなければならぬ役割とは何か、という問いを頂き、一人一人が作品に向き合う姿勢の大切さを再認識させていただいた。 最優秀グループ発表として6班が選ばれ、「探究の集い」のポスターセッションへの応募をすることが決まった。																																	
評価方法	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>観点1 アートによってどのような課題がどう解決に向かっているのか、または向かうことができていないのかについて分析できている。</b></td> </tr> <tr> <td>10点</td> <td>様々な資料や調査の結果を活用し地域の課題を的確にとらえ、そこへアートがどのような影響を与えているのかが具体的に述べられている。</td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>地域の課題について調べることができており、アートがその課題とどのように関係しているのかについて述べている。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>地域の課題についての表現が抽象的で、アートがその課題をどのように関係しているのかがよくわからない説明になっている。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点2 調査や分析の方法が多岐にわたり、発表に信ぴょう性を持たせることができている。</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>①HPの情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報、④その他の情報を十分に取り入れ、うまく活用できている。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>①HPの情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報を取り入れているが、調査に労を要したとは言い難い表面的なものである。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>HPで調べたことを並べかえているだけで、情報としての価値を見出すことはできない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点3 「アートと地域の関わり」について自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができているか。</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で捉え、独自の発見や考えを述べている。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で説明することができている。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>「アートと地域の関わり」について意見を述べていることができていない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点4 「アート」そのものの鑑賞ができているか。</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>作品そのものを「よく見る」とともに、その場所にその作品があることの「固有の意味」について見出すことができている。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>形や素材、大きさなど、作品そのものを「よく見る」ことができている。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>作品そのものを「よく見る」ことができていない。</td> </tr> </table> <p>ループリックに基づいた相互評価においてグループプレゼンの内容を評価した。          また、教員やゲストもおなじ指標で評価し、点数化する。</p>			<b>観点1 アートによってどのような課題がどう解決に向かっているのか、または向かうことができていないのかについて分析できている。</b>		10点	様々な資料や調査の結果を活用し地域の課題を的確にとらえ、そこへアートがどのような影響を与えているのかが具体的に述べられている。	5点	地域の課題について調べることができており、アートがその課題とどのように関係しているのかについて述べている。	1点	地域の課題についての表現が抽象的で、アートがその課題をどのように関係しているのかがよくわからない説明になっている。	<b>観点2 調査や分析の方法が多岐にわたり、発表に信ぴょう性を持たせることができている。</b>		5点	①HPの情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報、④その他の情報を十分に取り入れ、うまく活用できている。	3点	①HPの情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報を取り入れているが、調査に労を要したとは言い難い表面的なものである。	1点	HPで調べたことを並べかえているだけで、情報としての価値を見出すことはできない。	<b>観点3 「アートと地域の関わり」について自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができているか。</b>		5点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で捉え、独自の発見や考えを述べている。	3点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で説明することができている。	1点	「アートと地域の関わり」について意見を述べていることができていない。	<b>観点4 「アート」そのものの鑑賞ができているか。</b>		5点	作品そのものを「よく見る」とともに、その場所にその作品があることの「固有の意味」について見出すことができている。	3点	形や素材、大きさなど、作品そのものを「よく見る」ことができている。	1点	作品そのものを「よく見る」ことができていない。
<b>観点1 アートによってどのような課題がどう解決に向かっているのか、または向かうことができていないのかについて分析できている。</b>																																			
10点	様々な資料や調査の結果を活用し地域の課題を的確にとらえ、そこへアートがどのような影響を与えているのかが具体的に述べられている。																																		
5点	地域の課題について調べることができており、アートがその課題とどのように関係しているのかについて述べている。																																		
1点	地域の課題についての表現が抽象的で、アートがその課題をどのように関係しているのかがよくわからない説明になっている。																																		
<b>観点2 調査や分析の方法が多岐にわたり、発表に信ぴょう性を持たせることができている。</b>																																			
5点	①HPの情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報、④その他の情報を十分に取り入れ、うまく活用できている。																																		
3点	①HPの情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報を取り入れているが、調査に労を要したとは言い難い表面的なものである。																																		
1点	HPで調べたことを並べかえているだけで、情報としての価値を見出すことはできない。																																		
<b>観点3 「アートと地域の関わり」について自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができているか。</b>																																			
5点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で捉え、独自の発見や考えを述べている。																																		
3点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で説明することができている。																																		
1点	「アートと地域の関わり」について意見を述べていることができていない。																																		
<b>観点4 「アート」そのものの鑑賞ができているか。</b>																																			
5点	作品そのものを「よく見る」とともに、その場所にその作品があることの「固有の意味」について見出すことができている。																																		
3点	形や素材、大きさなど、作品そのものを「よく見る」ことができている。																																		
1点	作品そのものを「よく見る」ことができていない。																																		
宿題指示	相互評価におけるコメント記入と、ポートフォリオとしての自己省察を記入したプリントを完成させ、次回の授業までに提出。																																		